

【南丹市】

1人1台端末の利活用に係る計画

1. 1人1台端末を始めとするICT環境によって実現を目指す学びの姿

本市の第2次教育振興基本計画では「子どもありきの教育」と「すべての子どもの可能性を伸ばし進路を実現する教育」を目指す教育行政に努めることが示されている。教育施策の方針は「持続可能な社会の創り手として学び続ける人材の育成」「社会の変化や要望に対応した教育環境の充実」「地域の教育力の向上とふるさとを愛する心の醸成」の3つに整理され、教育のDX化はそのいずれにとっても基盤となる取り組みであり、個別最適な学びや探究的な学び、情報リテラシーを基盤とした授業実践により、デジタルツールを効果的に活かした創造的な学習を展開することで、児童生徒の問題解決力や発想力を養っていくことを目指している。

2. GIGA第1期の総括

GIGAスクール構想の実現に向けて、令和2年度に一人一台端末を導入し活用してきた。教職員については、授業で活用することを前提に、非常勤講師を含めた多様な職種の方に配付を行うとともに、基本的な操作方法や授業での活用方法について研修会を開催し、技術習得に努めた。また、端末導入に合わせて、大容量通信を実現できる学習系ネットワークを新たに構築し、各校にアクセスポイントを設置した。さらに、全ての児童生徒の学びを止めず保障するため、端末の持ち帰りを実施する際に、自宅にネットワークが整備されていない家庭については、モバイルルータを貸し出している。

これまで、ICT支援員の配置やヘルプデスクの設置等により支援を行ってきたことで活用の促進は図られているが、学校間差や個人差が明確になり、課題となっているため、教員の意識やICT活用指導力の更なる向上が求められている。また、タブレット端末の性能による容量不足やネットワークトラブルも見受けられた。

3. 1人1台端末の利活用方策

本市では、GIGAスクール構想第2期において、端末を更新し、児童生徒1人1台の端末環境を引き続き維持する。また、その効果的な利用促進に向けて、以下の取り組みを進めていく。

- ・ヘルプデスクを継続して設置するとともに、情報担当教員による研究会を定期的に行い、学校間差、個人差なくタブレット端末を日常的に活用できるよう、教員のICT活用スキルの向上を図る。また、タブレット端末の家庭への持ち帰りを日常化し、学習者用デジタル教科書、AI型デジタルドリル、授業支援ソフトウェア等を校内及び家庭学習で活用する。

- ・ 文部科学省の「児童生徒の自殺予防に係る取組について（通知）」及び「誰一人取り残されない学びの保障に向けた不登校対策（COCOLOプラン）」に記載されているとおり、1人1台端末を活用し、心や体調の変化を早期発見する取組が広がりつつあることを踏まえ、不登校や特別支援、日本語指導など、様々な困難を抱える児童生徒に対する支援として、多様な場面でICTを活用する。
- ・ タブレット端末の性能による容量不足については、次期の端末のストレージが64GBに向上するため解決できると想定される。
- ・ ネットワークトラブルが発生した際には、ヘルプデスクと連携し、迅速に対応する。